

# 島根県の経済動向

平成20年10月28日  
政策企画局統計調査課

平成20年8月分

先月からの主要変更点

	8月分	7月分
総括判断	本県経済の動向は、個人消費は底堅い動きが続いているが、 <u>生産活動は横ばいながらも一部に弱い動きがみられ、雇用情勢は弱含み、投資動向も基調として弱い動きが続いており、やや弱い動きとなっている。</u>	本県経済の動向は、雇用情勢が一部に改善の動きがみられるものの総じて弱含み、投資動向も基調として弱い動きが続いているが、個人消費は底堅い動きが続き、生産活動は横ばい圏内の動きとなっており、全体として横ばいで推移している。
個別項目	「生産活動」 <u>横ばいながらも一部に弱い動き</u> 「雇用情勢」 弱含み	「生産活動」 横ばい圏内の動き 「雇用情勢」 一部に改善の動きがみられるものの総じて弱含み

(注) 下線部は、先月から変更した部分。

# 島根県の経済動向

平成20年10月28日  
政策企画局 統計調査課

## 平成20年8月分

本県経済の動向は、個人消費は底堅い動きが続いているが、生産活動は横ばいながらも一部に弱い動きがみられ、雇用情勢は弱含み、投資動向も基調として弱い動きが続いており、やや弱い動きとなっている。

生産活動	→	～横ばいながらも一部に弱い動き～	大口電力需要実績は37か月連続で前年を上回ったが、鉱工業生産指数(季節調整済指数)は98.8に低下し、対前年同月比も2か月振りにマイナスとなり、横ばいながらも一部に弱い動きがみられる。
雇用情勢	→	～弱含んでいる～	常用労働者数、きまって支給する給与は2か月連続で前年を上回ったが、有効求人倍率は0.88倍に低下し、新規求人数も4か月連続で前年を下回っており、弱含んでいる。
個人消費	→	～底堅い動き～	大型小売店販売額は3か月連続で前年を上回った。ホームセンター販売額は4か月連続で、家電量販店販売額も6か月連続で前年を上回っており、底堅い動きが続いている。
投資動向	→	～基調としては弱い動き～	建築着工床面積、新設住宅着工戸数は2か月連続で前年を上回ったが、公共工事請負金額は2か月連続で前年を下回っており、基調としては弱い動きが続いている。
企業倒産	→	～倒産件数4件～	企業倒産件数は4件。うち建設業は3件、製造業は1件。
金融情勢	→	～貸出金残高は2か月連続でマイナス～	銀行預金残高は2か月連続で前年を上回った。銀行貸出金残高は2か月連続で前年を下回った。
物 価	→	～対前年2.5%上昇～	消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は103.0となり、対前年同月比2.5%増と10か月連続で上昇となった。
その他(参考)	島根県景気動向指数 (平成20年10月28日公表)		景気動向指数の先行指数は5か月振りに50%ラインを下回った。一致指数は3か月連続で50%ラインを上回った。
	法人企業景気予測調査結果 (平成20年9月24日公表)		財務省松江財務事務所の景況判断は、現状(20年7～9月期)の景況判断BSIは▲28.0%ポイントと「下降」超幅が縮小している。 先行きについては、翌期(10～12月期)、翌々期(21年1～3月期)と「下降」超幅が縮小する見通し。

経済指標	前年同月比(*を除く)%						
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
生産活動	* 鉱工業生産指数(季節調整済指数)	99.0	103.3	97.3	100.7	107.1	98.8
	〃 (原指数)	▲7.5	▲1.0	▲5.7	▲5.6	1.2	▲8.1
	大口電力需要実績	6.3	7.1	11.6	5.8	7.8	1.3
雇用情勢	* 有効求人倍率(倍)	0.86	0.86	0.89	0.93	0.92	0.88
	新規求人数	▲14.0	1.8	▲5.7	▲3.1	▲11.2	▲15.2
	常用労働者数	0.4	▲0.7	▲0.3	▲1.0	0.5	0.9
	現金給与総額	0.5	▲2.1	0.0	0.5	▲5.3	0.0
	きまって支給する給与	0.2	▲1.6	▲0.2	▲1.4	0.9	1.2
	所定外労働時間(製造業)	4.5	4.9	8.0	▲1.5	▲12.3	▲12.3
個人消費	大型小売店販売額	2.7	0.4	▲0.4	4.9	6.2	1.9
	ホームセンター販売額	4.1	▲0.2	5.0	4.7	8.9	2.7
	家電量販店販売額	18.4	14.5	7.7	16.4	18.5	9.3
	乗用車新車登録台数	▲3.7	11.5	3.7	▲0.5	10.3	▲6.7
	出雲空港利用者数	▲1.0	4.6	5.7	1.0	10.9	15.1
投資動向	建築着工床面積(非居住用)	113.8	▲66.5	▲19.6	▲84.5	85.5	1.0
	公共工事請負金額	16.9	▲25.9	39.9	16.8	▲16.0	▲1.9
	新設住宅着工戸数	▲1.8	▲38.0	78.1	▲43.9	62.0	49.8
企業倒産	* 企業倒産件数(件)	7	10	9	9	6	4
	* 負債総額(百万円)	560	1,770	5,010	1,488	959	1,682
金融情勢	銀行預金残高	▲0.2	▲0.1	1.1	▲0.7	1.8	3.6
	銀行貸出金残高	▲0.6	0.0	0.3	0.2	▲0.2	▲0.2
物 価	* 消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)	101.3	101.1	102.0	102.4	102.7	103.0
その他	* 景気動向指数(先行指数)	42.9	57.1	71.4	71.4	57.1	42.9
	* 景気動向指数(一致指数)	44.4	55.6	44.4	100.0	77.8	77.8

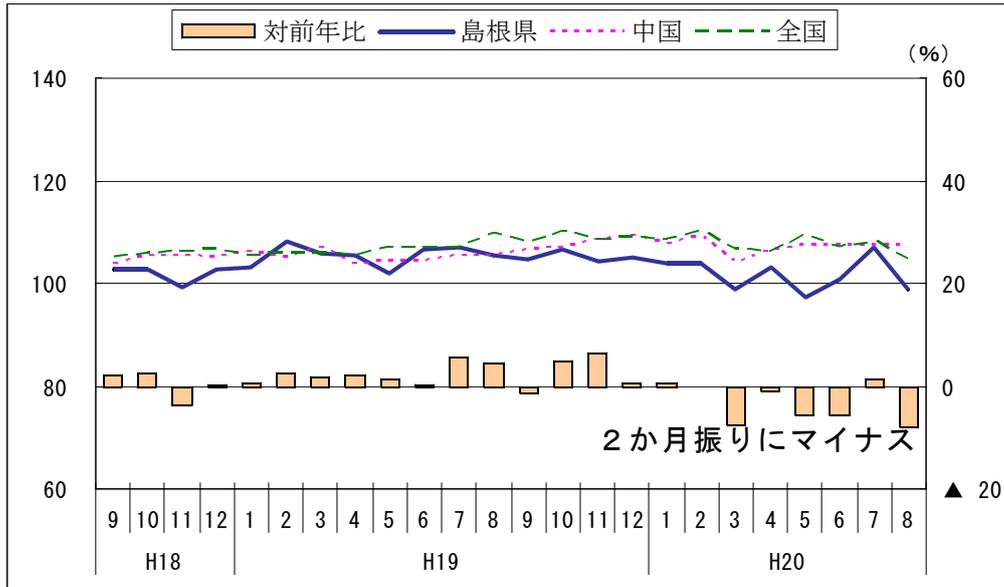
## 経済動向に関する他機関の公表資料（抜粋）

全 国	「月例経済報告（内閣府）」 平成20年10月20日
	<p>景気は、弱まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸出は、緩やかに減少している。生産は、減少している。</li> <li>・ 企業収益は、減少している。設備投資は、弱含んでいる。</li> <li>・ 雇用情勢は、悪化しつつある。</li> <li>・ 個人消費は、おおむね横ばいとなっているが、足下で弱い動きもみられる。</li> </ul> <p>先行きについては、当面、世界経済が減速するなかで、下向きの動きが続くとみられる。加えて、アメリカ・欧州における金融危機の深刻化や景気の一層の下振れ懸念、株式・為替市場の大幅な変動などから、景気の状態がさらに厳しいものとなるリスクが存在することに留意する必要がある。</p>
中 国 地 方	「中国地域の経済動向（中国経済産業局）」 平成20年10月14日
	<p>中国地域の景気は、景況感に慎重さが増しており、個人消費もやや弱含むなど、基調としてはやや弱含んでいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生産動向…横ばいながらも一部に弱い動き</li> <li>2. 景況感…厳しい水準</li> <li>3. 産業用電力需要…堅調</li> <li>4. 物価…消費者物価は11か月連続の上昇</li> <li>5. 個人消費…やや弱含む</li> <li>6. 設備投資…堅調ながらもやや減速感</li> <li>7. 建設動向…低調</li> <li>8. 雇用動向…やや弱含む</li> <li>9. 企業倒産…増加傾向</li> <li>10. 貿易…輸出は堅調</li> </ol>
山 陰 地 方	「山陰の金融経済動向（日本銀行松江支店）」 2008年10月1日
	<p>山陰両県の景気は、横ばい圏内の中で、弱めの動きが広がっている。すなわち、最終需要面をみると、個人消費は夏物商品の一部や観光関連が堅調であったものの、基調的には弱めの動きが続いている。設備投資では収益の悪化等を背景に、企業の投資スタンスは足もと慎重の度合いを増している。また、住宅投資が低調に推移しているほか、公共投資も減少している。こうした中、生産は引き続き操業度引き下げの動きが広がっており、雇用・所得情勢も弱めの動きとなっている。この間、企業の業況感は、低位で横ばい圏内の動きとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産は、足もと引き続き操業度引き下げの動きが広がっている。</li> <li>・ 個人消費は、夏物商品の一部や観光関連が堅調であったものの、基調的には弱めの動きが続いている。</li> <li>・ 設備投資（9月短観調査）をみると、収益の悪化等を背景に、企業の投資スタンスは足もと慎重の度合いを増している。</li> <li>・ 公共投資は、減少している。</li> <li>・ 住宅投資は、低調に推移している。</li> <li>・ 雇用・所得情勢は、弱めの動きとなっている。</li> </ul>
山 陰 地 方	「山陰経済動向（山陰経済経営研究所）」 平成20年9月30日
	<p>当地の景気は、設備投資が対前年度比2桁の伸びを計画している一方、生産はやや弱含む、個人消費にも基調的な弱さがうかがえ、総じて弱含みで推移している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共投資は、基調としては横ばい圏内での推移が続く。</li> <li>・ 設備投資は、全産業でも前年度を上回る計画（企業動向調査9月）。</li> <li>・ 住宅建設は、基調としては弱い動きが続いている。</li> <li>・ 個人消費は、基調は弱いだが、一部に底堅い動きもみられる。</li> <li>・ 生産は、総じてはやや弱含みでの推移が続く。</li> <li>・ 雇用情勢は、基調としては横ばい圏内での動きが続いている。</li> <li>・ 企業の業況判断は、足元、製造業、非製造業ともに悪化したことから、全産業でも悪化（▲22.8→▲37.1）。先行き（09年3月）については、製造業、非製造業ともに改善を予想していることから、全産業でも改善（▲37.1→▲23.4）の見通し（企業動向調査9月）。</li> </ul>
島 根 県	「島根県の経済情勢（財務省松江財務事務所）」 平成20年7月30日（四半期ごとに公表）
	<p>県内経済は、持ち直しの動きが続いている個人消費に一部弱い動きがみられるほか、生産活動にこのところやや弱さがみられることなどから、足踏み状態となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人消費 持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱い動き</li> <li>・ 生産活動 やや弱さがみられる</li> <li>・ 雇用情勢 引き続き弱含んでいる</li> <li>・ 公共事業 前年度を上回っている</li> <li>・ 設備投資 20年度は減少見通し</li> <li>・ 企業収益 20年度は減益見通し</li> </ul>

## 経済指標の推移

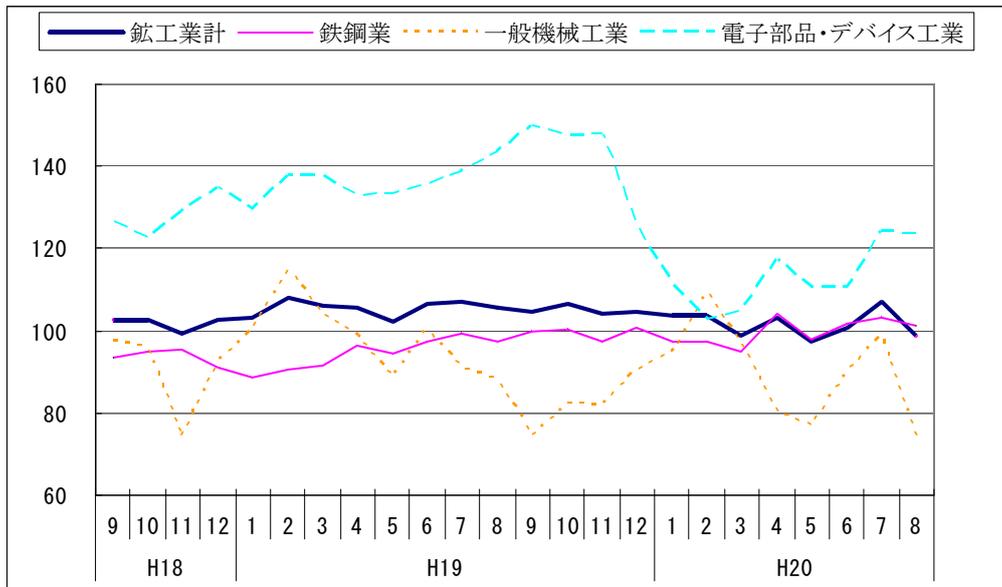
【生産活動】 ～横ばいながらも一部に弱い動き～

鉱工業生産指数（季節調整済 平成17年=100）



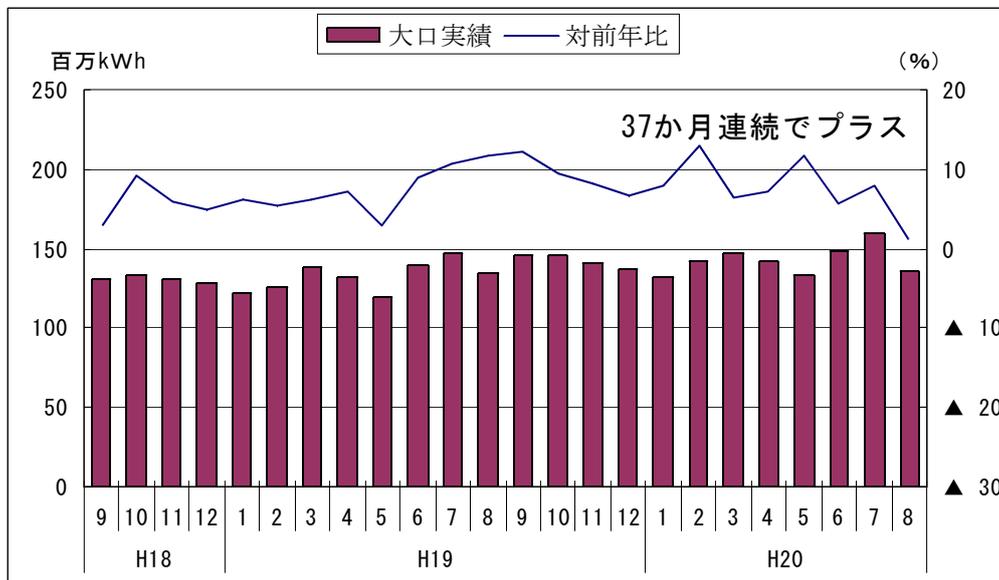
(注) 対前年比は、島根県の原指数 (県統計調査課、経済産業省)

島根県鉱工業生産指数（業種別）



(県統計調査課)

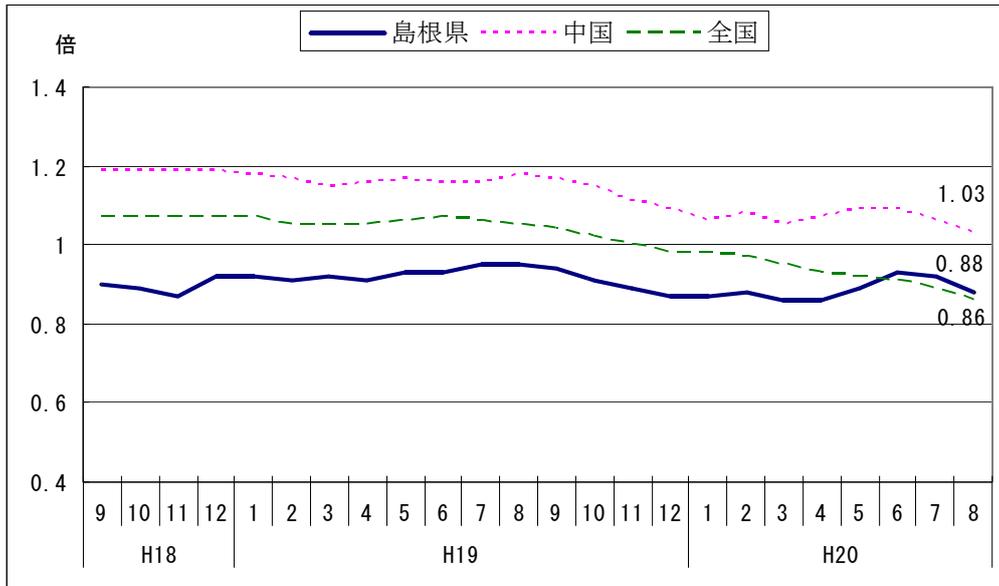
大口電力需要実績



(中国電力株)

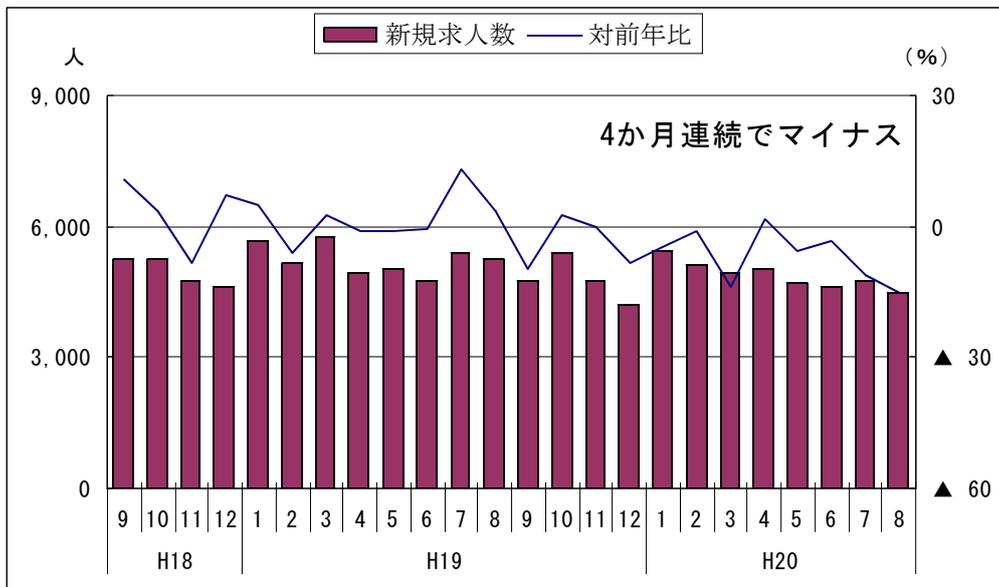
【雇用情勢】 ～弱含んでいる～

有効求人倍率（学卒を除き、パートを含む）



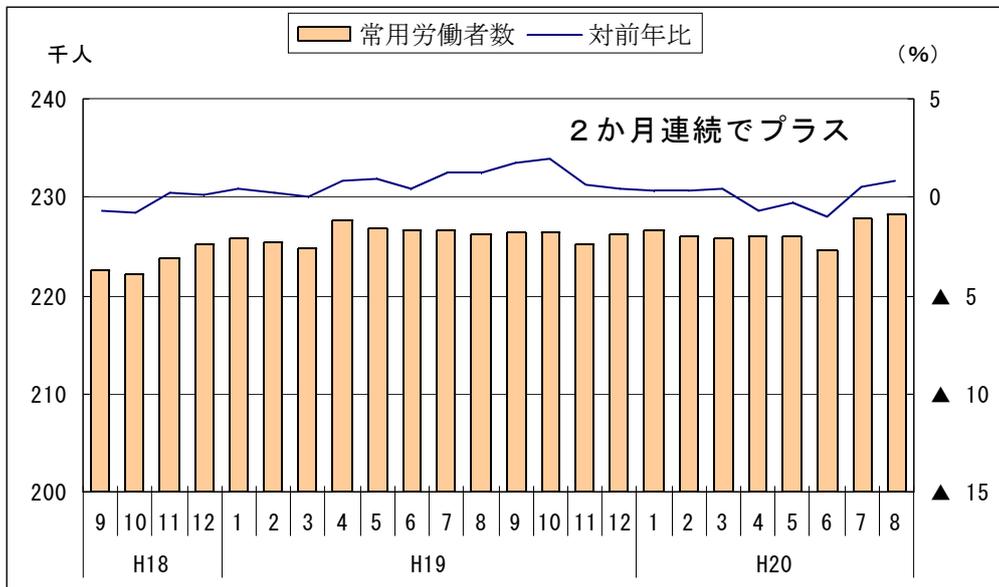
(厚生労働省、島根労働局)

新規求人数



(島根労働局)

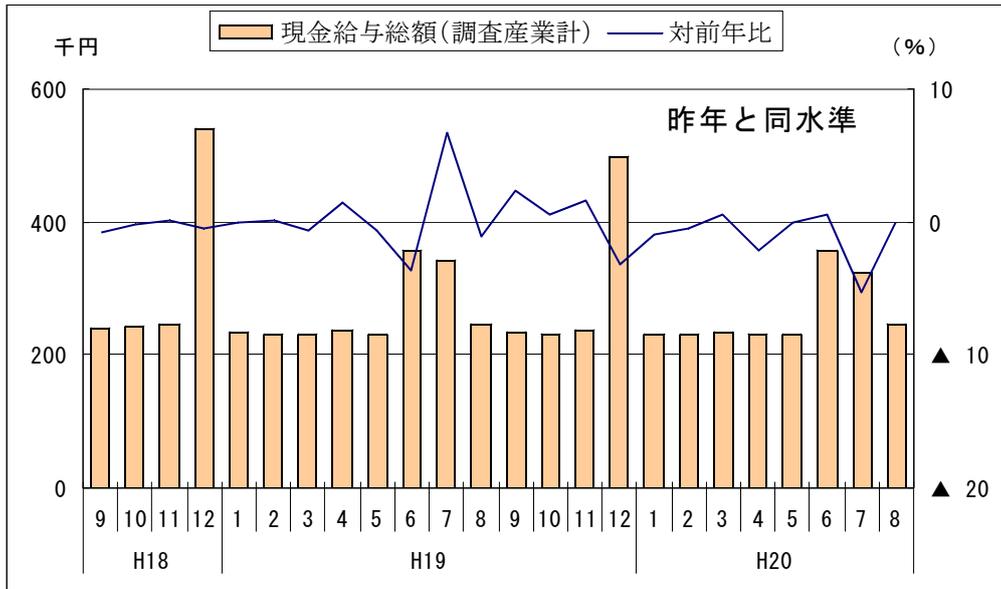
常用労働者数（5人以上・調査産業計）



(県統計調査課)

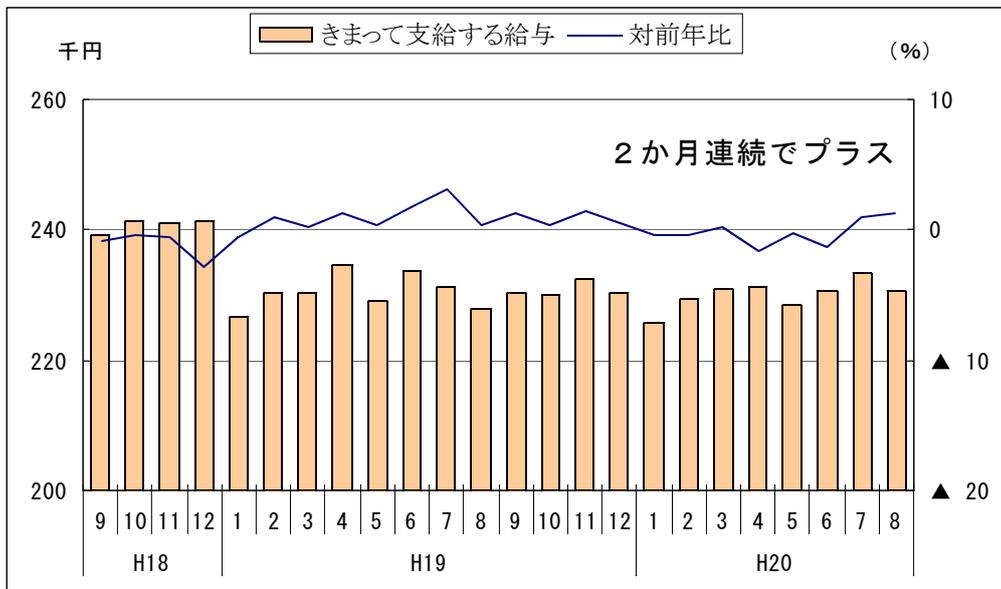
【雇用情勢】 ～弱含んでいる～

現金給与総額（5人以上・調査産業計）



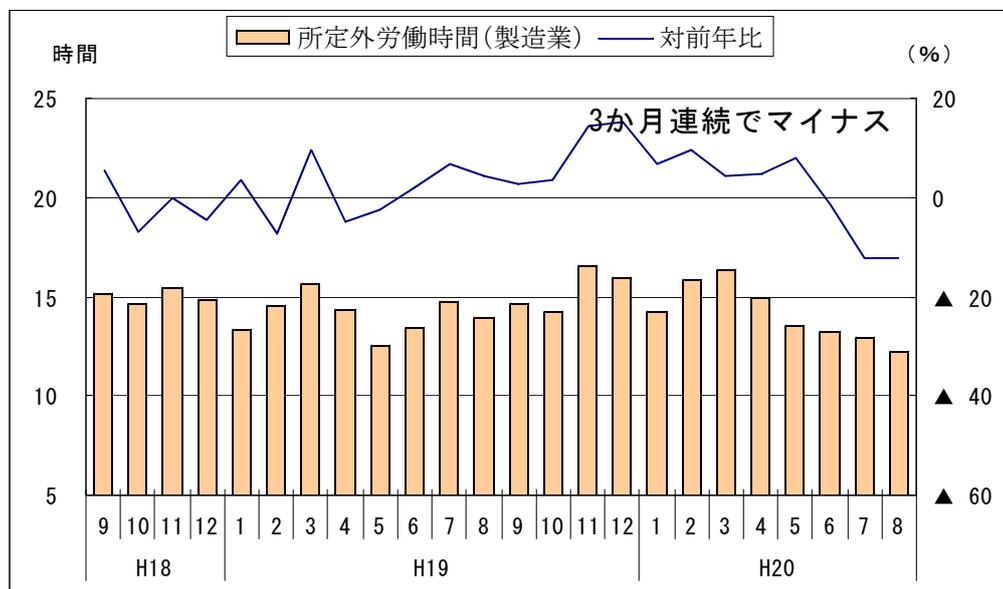
(県統計調査課)

きまって支給する給与（5人以上・調査産業計）



(県統計調査課)

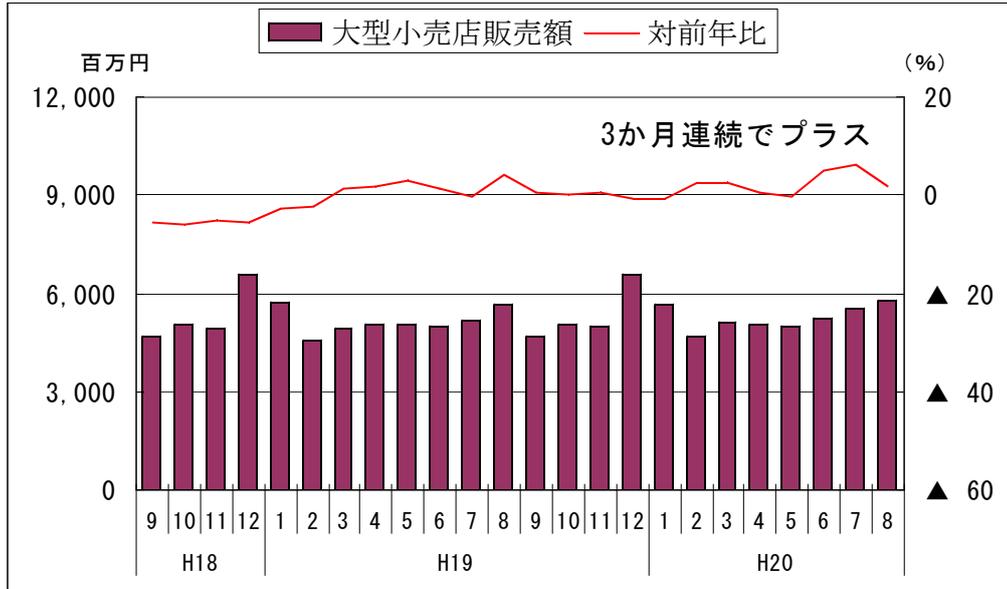
所定外労働時間（5人以上・製造業）



(県統計調査課)

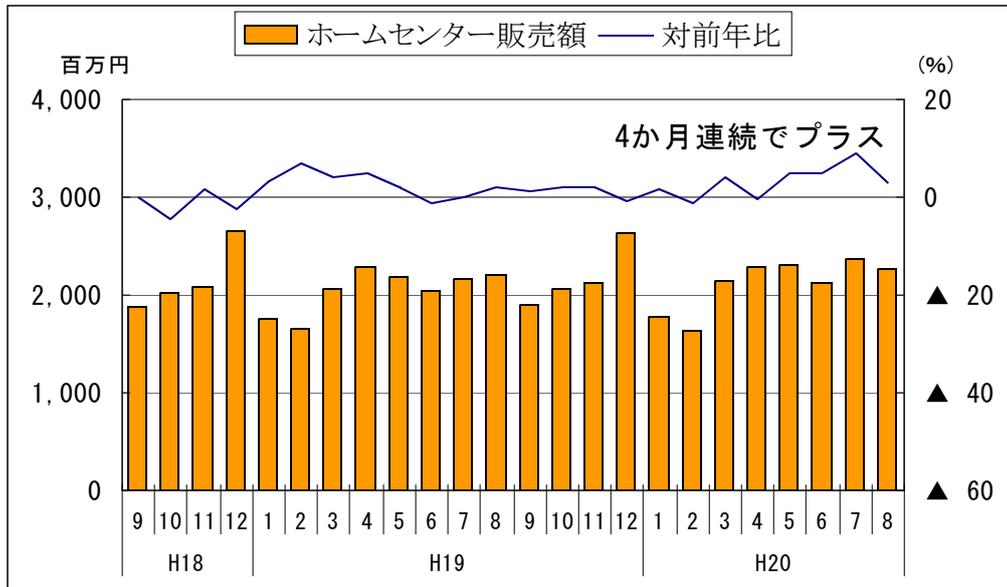
【 個人消費 】 ～底堅い動き～

大型小売店販売額



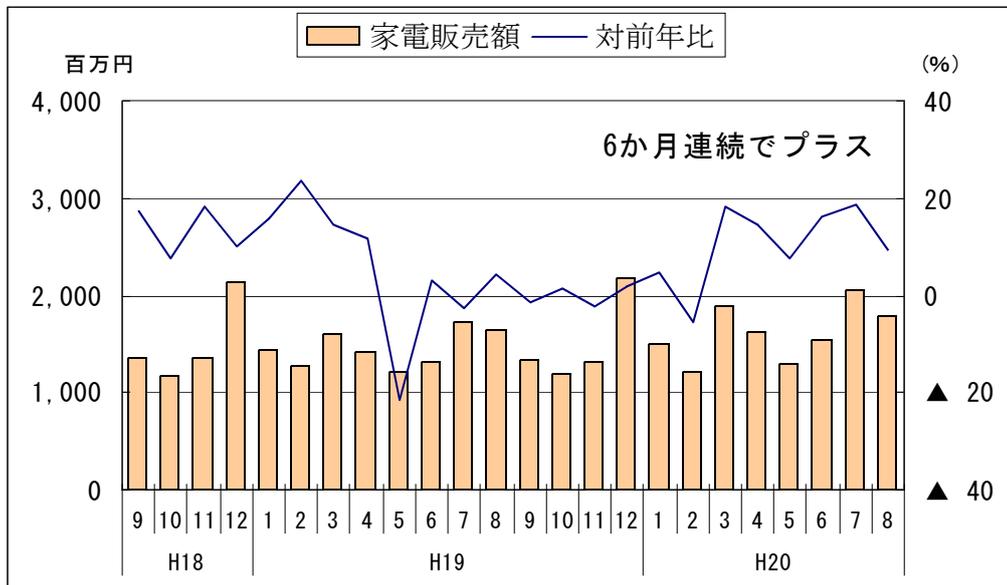
(中国経済産業局)

ホームセンター販売額



(中国経済産業局)

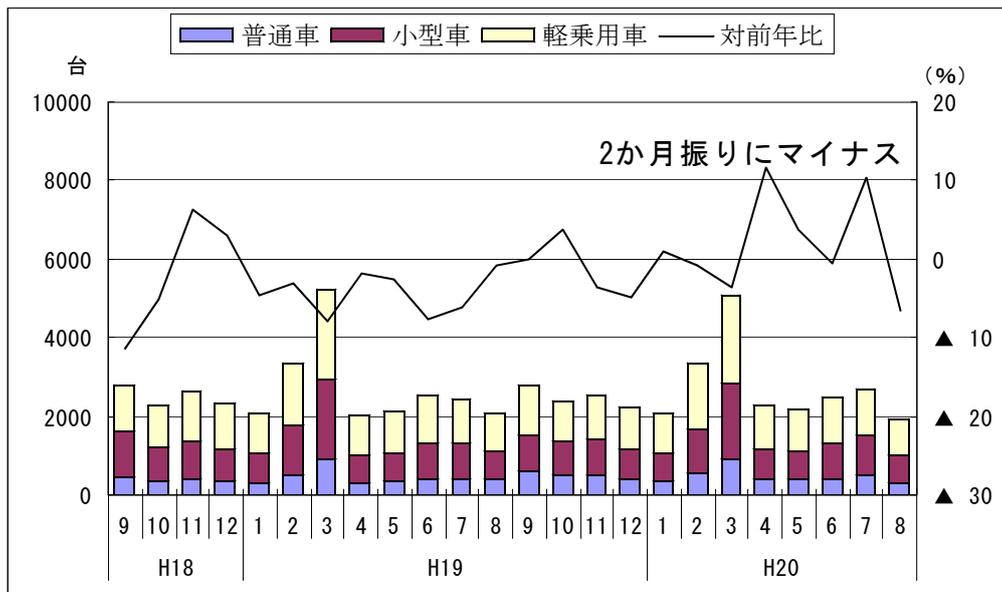
家電量販店販売額



(中国経済産業局)

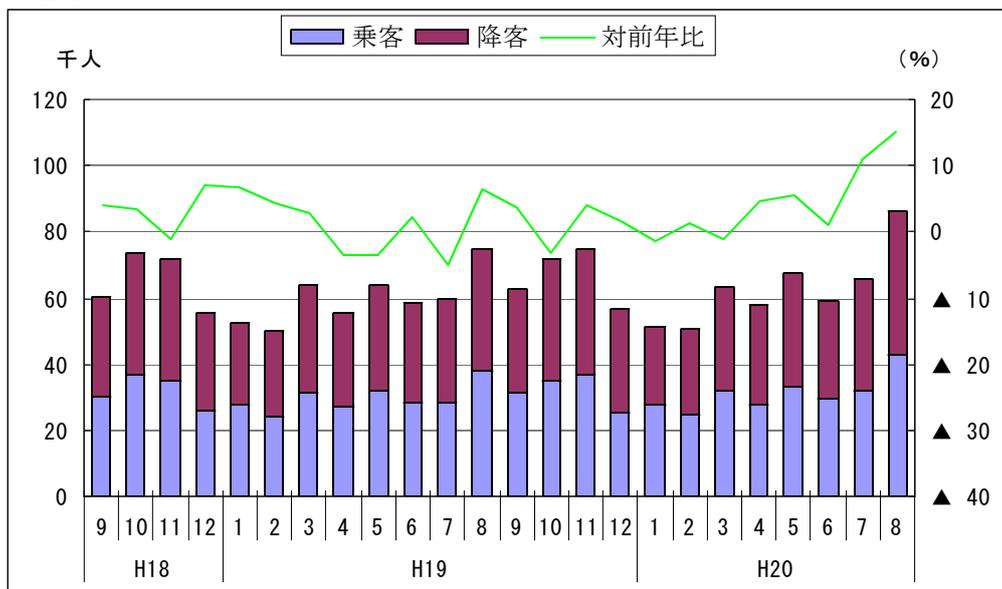
【 個人消費 】 ～底堅い動き～

乗用車新車登録台数



(中国運輸局)

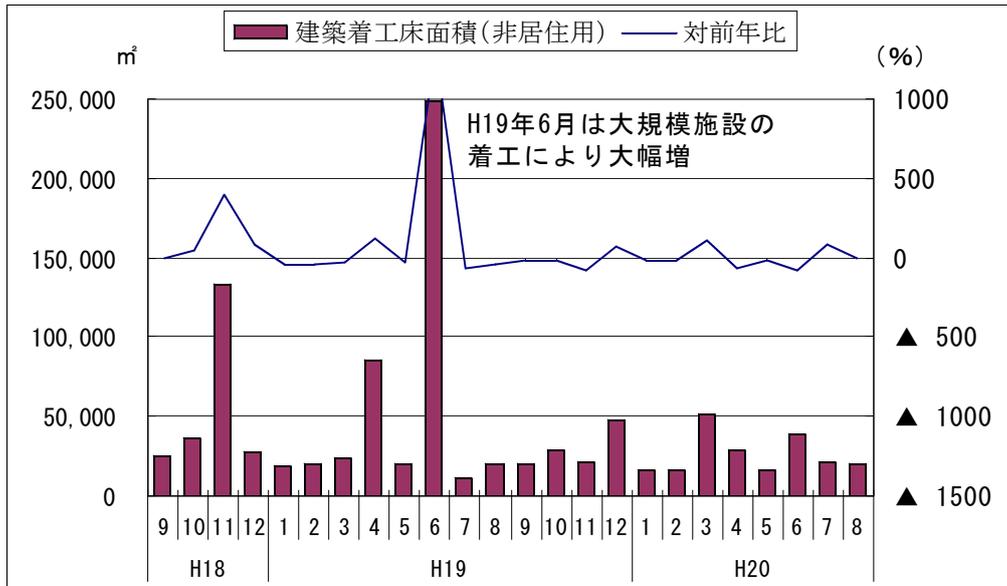
出雲空港利用者数



(県港湾空港課)

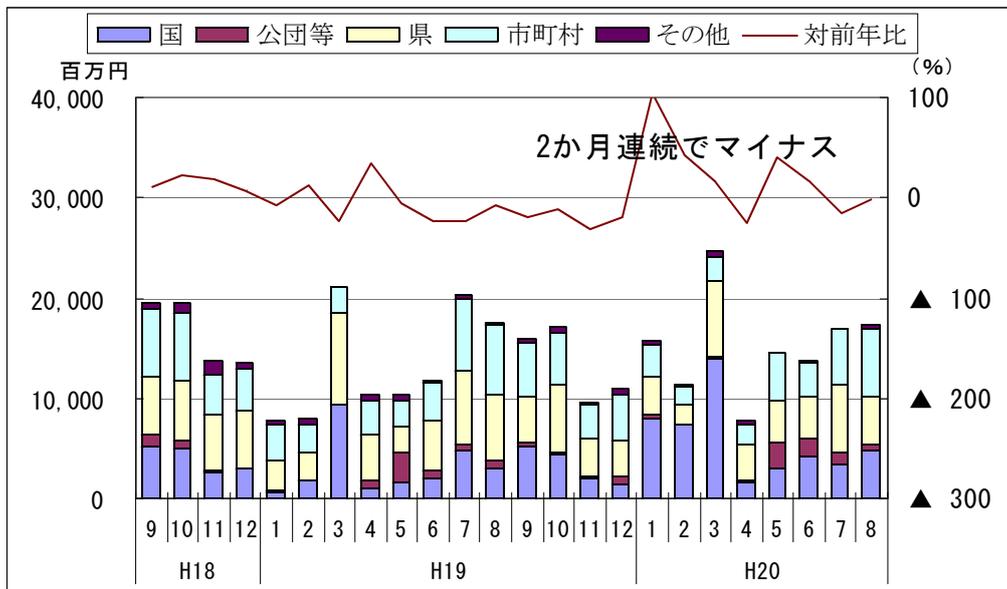
【 投資動向 】 ～基調としては弱い動き～

建築着工床面積（非居住用）



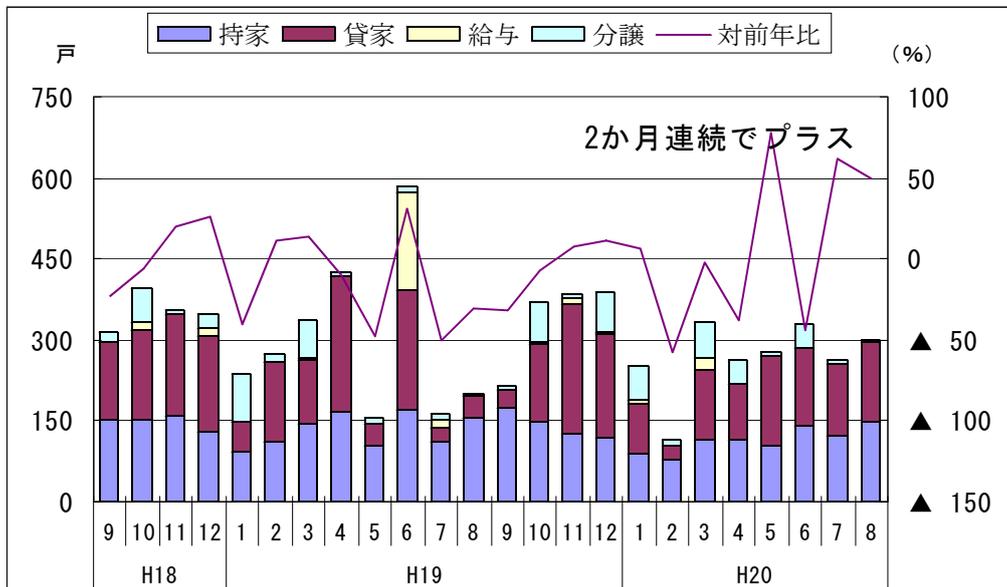
(国土交通省)

公共工事請負金額



(西日本建設業保証㈱)

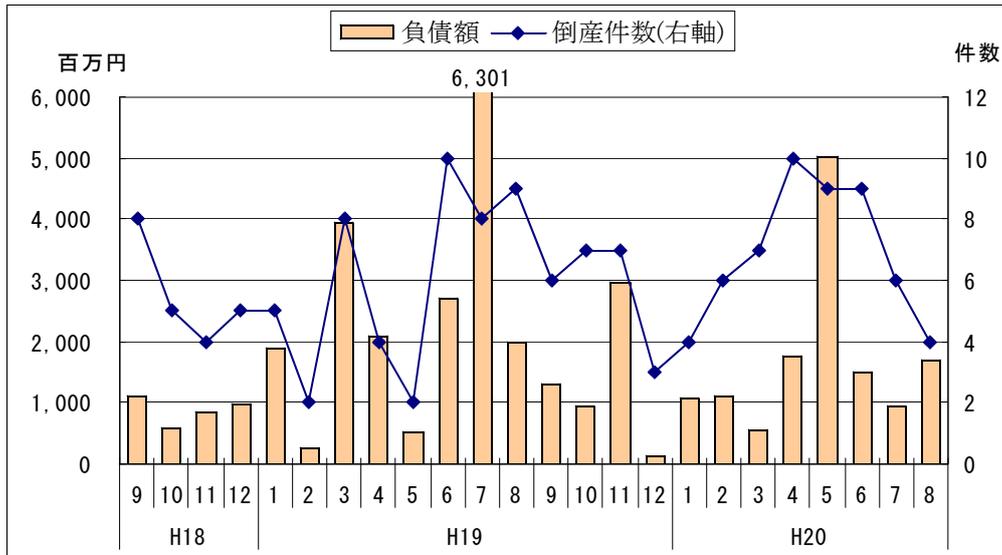
新設住宅着工戸数



(国土交通省)

【 企業倒産 】 ～倒産件数 4 件～

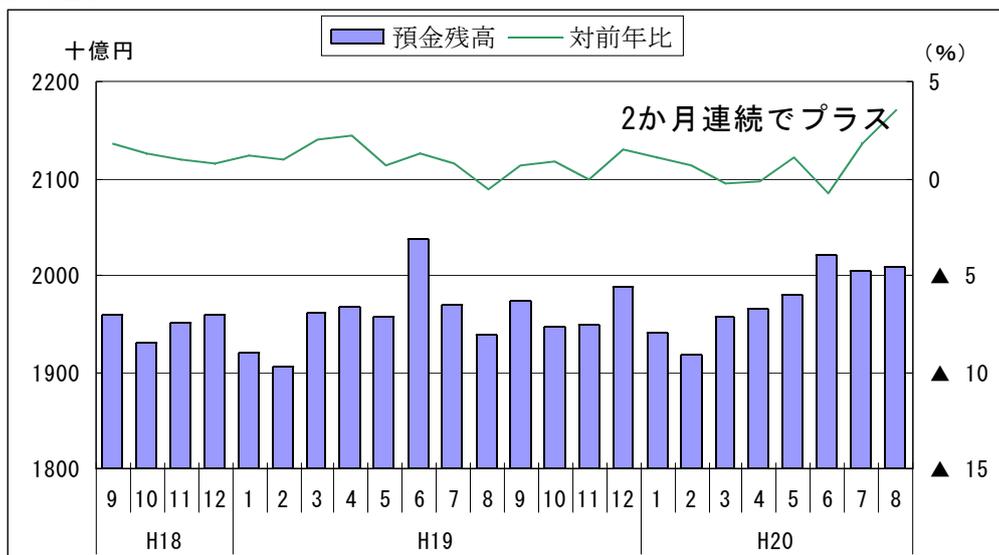
企業倒産件数、負債総額



(株東京商工リサーチ)

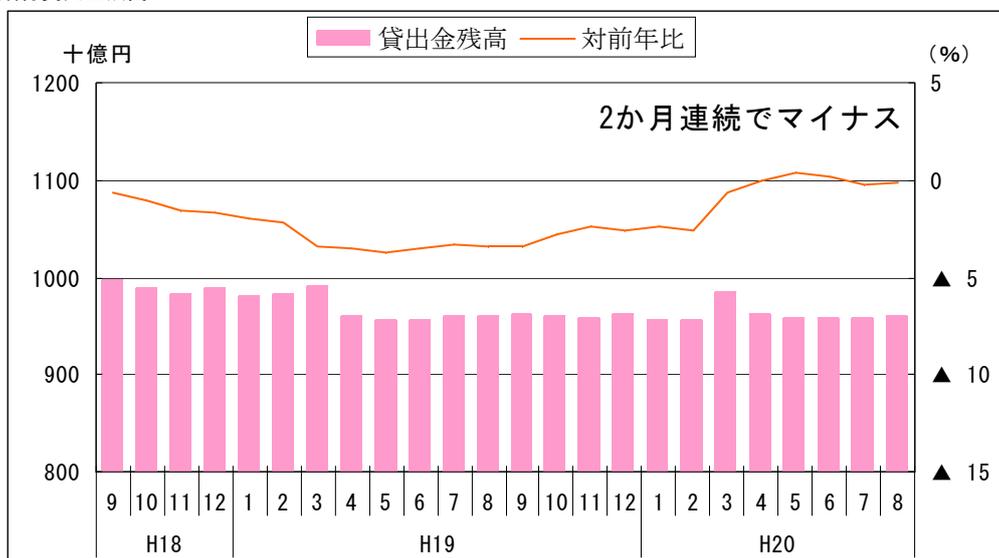
【 金融情勢 】 ～貸出金残高が、2か月連続でマイナス～

銀行預金残高



(日本銀行松江支店)

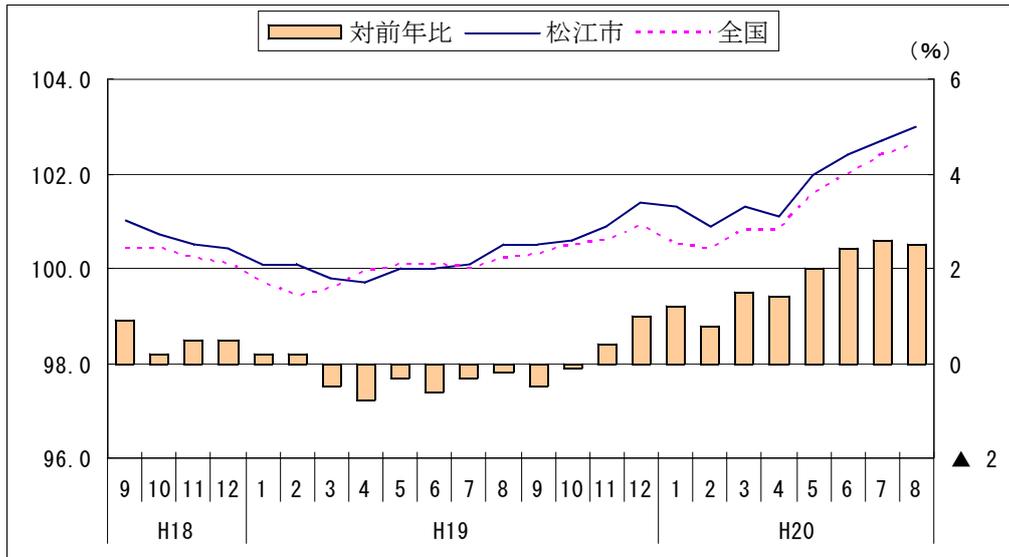
銀行貸出金残高



(日本銀行松江支店)

【物 価】 ～対前年 2.5%の上昇～

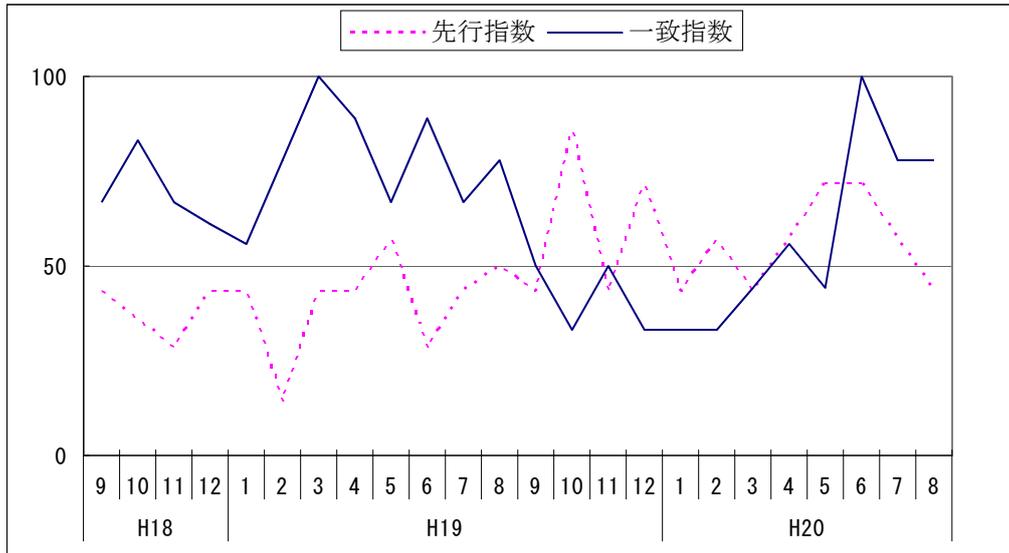
消費者物価指数（生鮮食品を除く総合） H17年=100



(総務省統計局)

その他(参考)

島根県景気動向指数



(県統計調査課)

法人企業景気予測調査結果（平成20年9月24日 財務省松江財務事務所）

平成20年7～9月期調査

景況判断BSI

(BSI：前期比判断「上昇」－「下降」社数構成比)

(%ポイント)

区分	20年4～6月 前回調査	20年7～9月 今回調査	20年10～12月 見通し	21年1～3月 見通し
全産業	▲30.7	(▲16.8) ▲28.0	(▲1.0) ▲22.0	▲6.0
製造業	▲34.1	(▲12.2) ▲41.5	(4.9) ▲24.4	▲2.4
非製造業	▲28.3	(▲20.0) ▲18.6	(▲5.0) ▲20.3	▲8.5
大企業	0.0	(0.0) 0.0	(0.0) ▲16.7	0.0
中堅企業	▲30.3	(▲9.1) ▲20.6	(6.1) ▲17.6	2.9
中小企業	▲33.9	(▲22.6) ▲35.0	(▲4.8) ▲25.0	▲11.7

※( ) 書きは、前回(20年4～6月期)調査時の見通し。